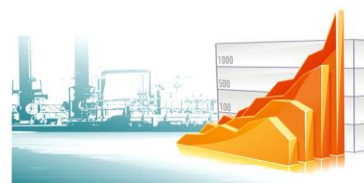


ぎふ経済レポート



平成29年5月分
岐阜県商工労働部

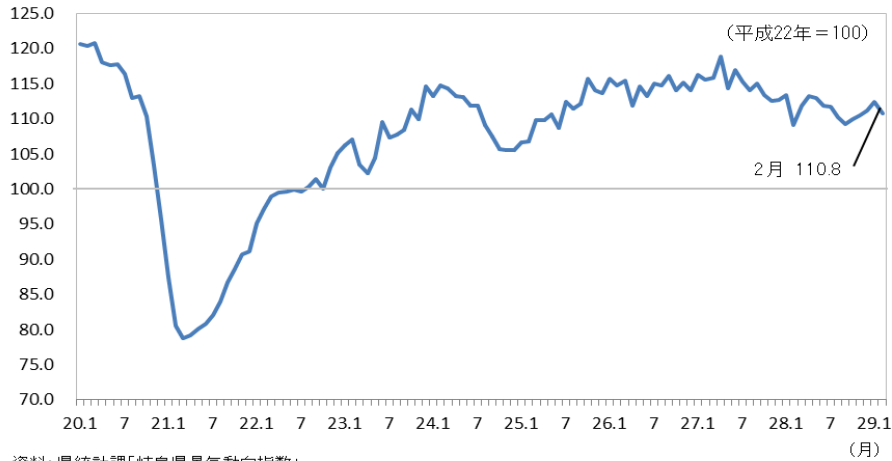
※企業等へのヒアリングは 5月25日～29日を中心に実施し、6月9日に作成。

景気動向

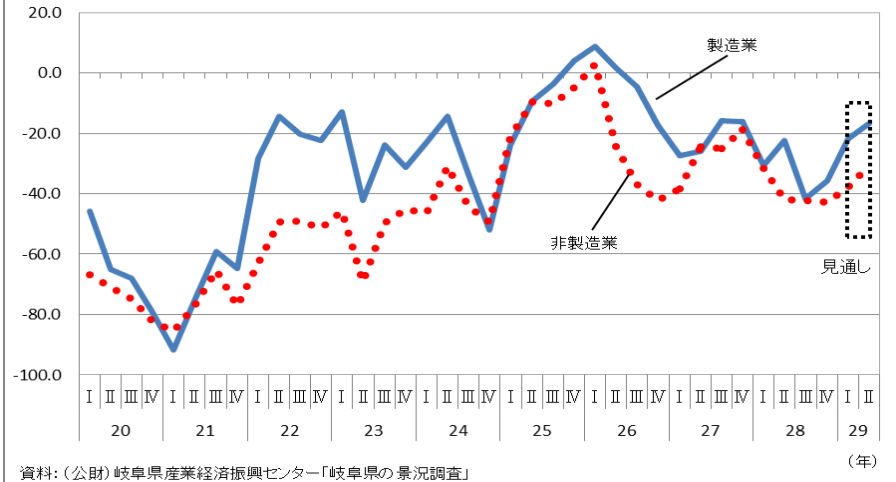
- 2月の景気動向指数(一致指数)は、110.8と前月比1.6ポイント悪化した。
- 4月の県内中小企業の景況感(好転-悪化)は、マイナス20と前月比7ポイント改善した。

- 平成29年4-6月期の景況感は、製造業5.2ポイント、非製造業7.1ポイント増加となる見通し。
- 売上高DIは、製造業が1.3ポイント減少、非製造業は2.2ポイント増加となる見通し。

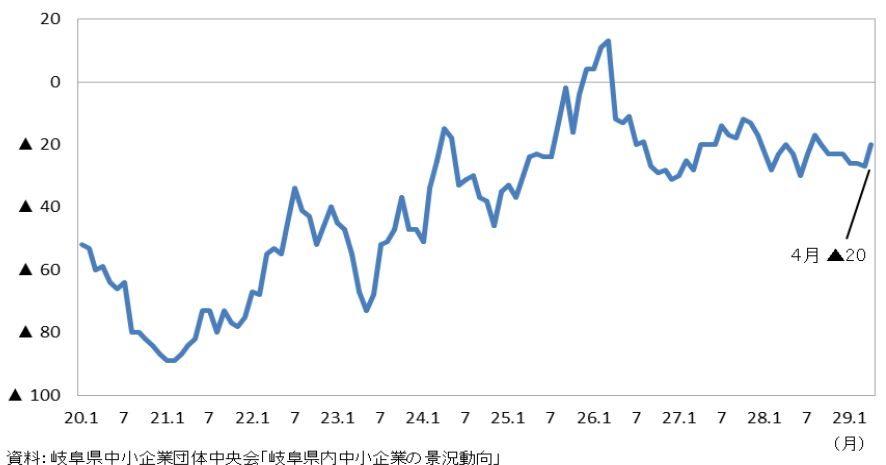
岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



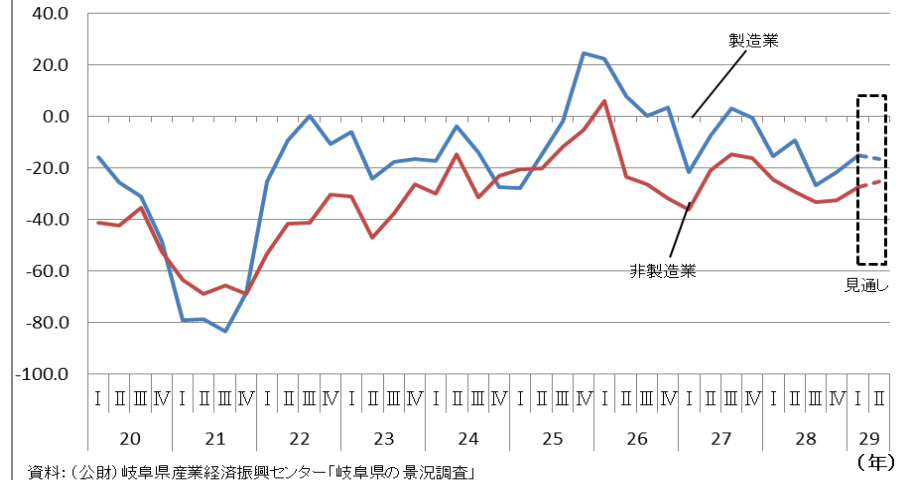
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

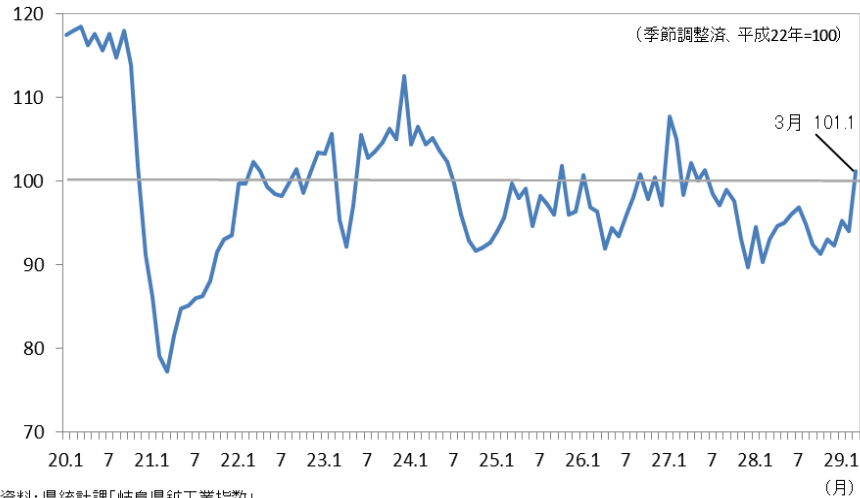


製造業

- 3月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、前月比7.1ポイント増加し、101.1となる。
- 指数が100を超えるのは平成27年6月以来1年9ヶ月ぶりとなる。

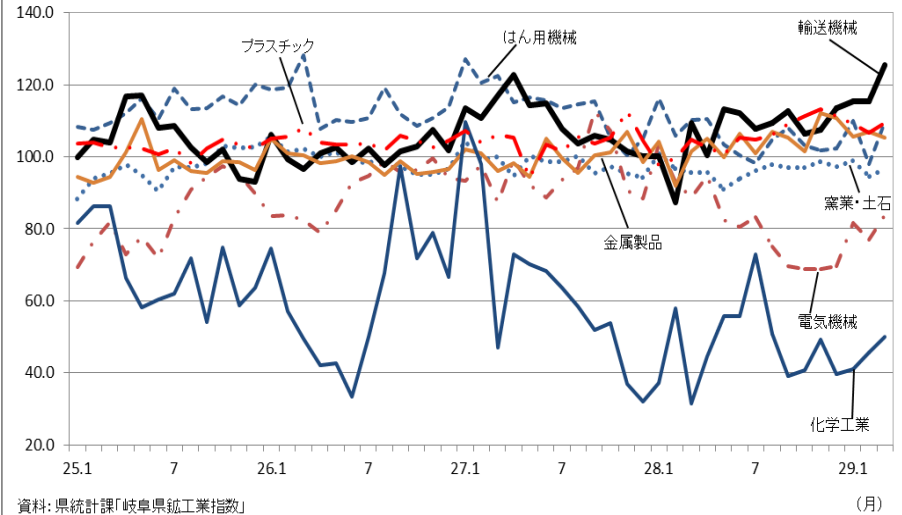
- 3月の主な産業の指数は、金属製品を除き、全産業で前月より増加。
- 特に輸送用機械は125.6ポイントで平成20年7月以来8年8ヶ月ぶりの高水準となる。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)

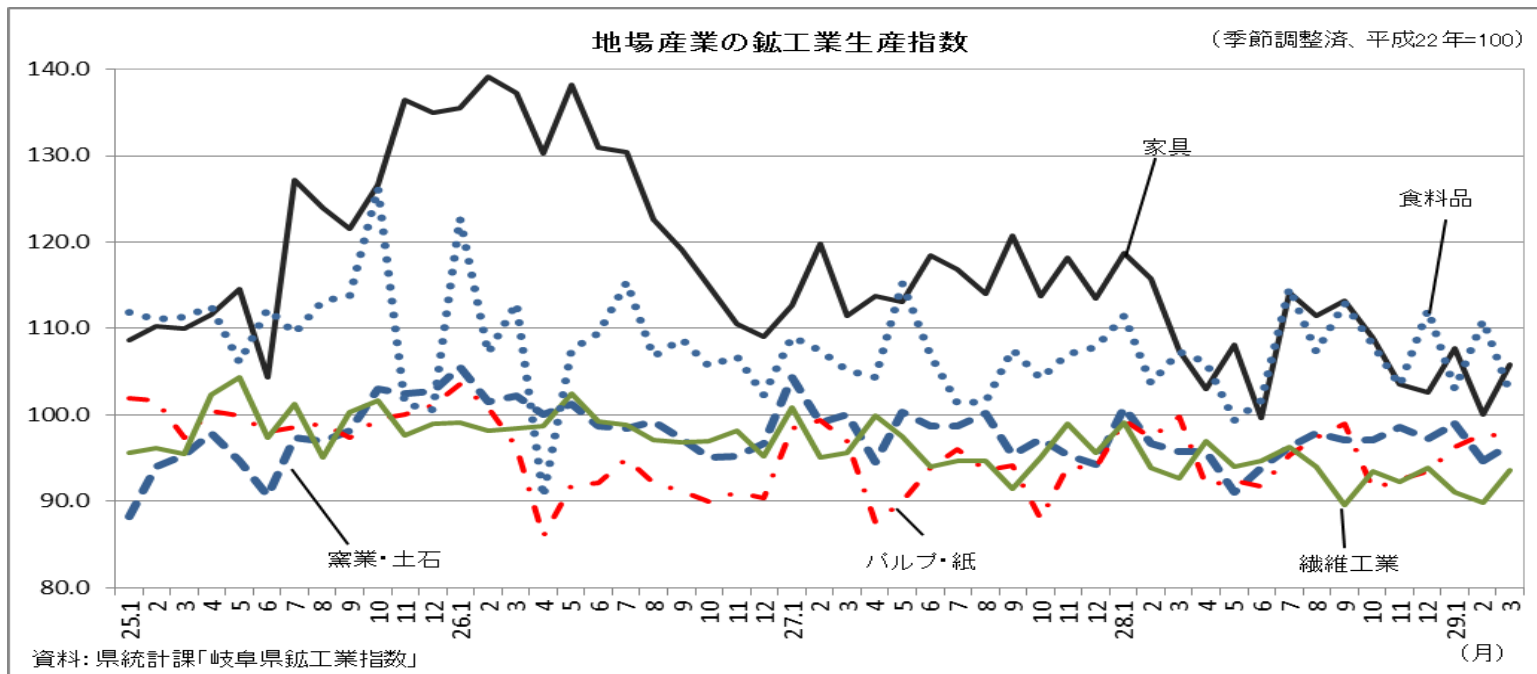


現場の動き

- ◆主要取引先(自動車)の販売台数、生産台数ともに一部車種で上向き。HVなどの環境対応車の部品生産が一部増加している。(輸送用機械)
- ◆自動車関係については引き続き好調。秋ごろから、新規受注分の量産があり、さらに増加する予定。また、工作機械関係については、昨年末より増産の動きがあり、発注が増加している。(輸送用機械)
- ◆設計の受注状況が好調で、現場は忙しい状況が続いており、受注も計画通り確保できている。(生産用機械)
- ◆中国だけでなく東南アジアでも建設機械の需要が高まっており、売り上げは前年同月比2割増加。(はん用機械)
- ◆今年に入り、受注については上向きになっており、来年2月頃までは予定通り受注が確保できる見込み。新型のiPhoneに係る中国向けの工作機械関連の受注が好調なことが要因。(金属製品)
- ◆海外需要の堅調に加え、自動車関係を中心に大口の設備投資が出始めており、売上は好調に推移。(電気機械)

製造業-2

- 3月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、パルプ・紙、食料品以外の産業において前月比増加した。
- 食料品及び家具製造業の生産指数については、100を上回って底堅く推移している。

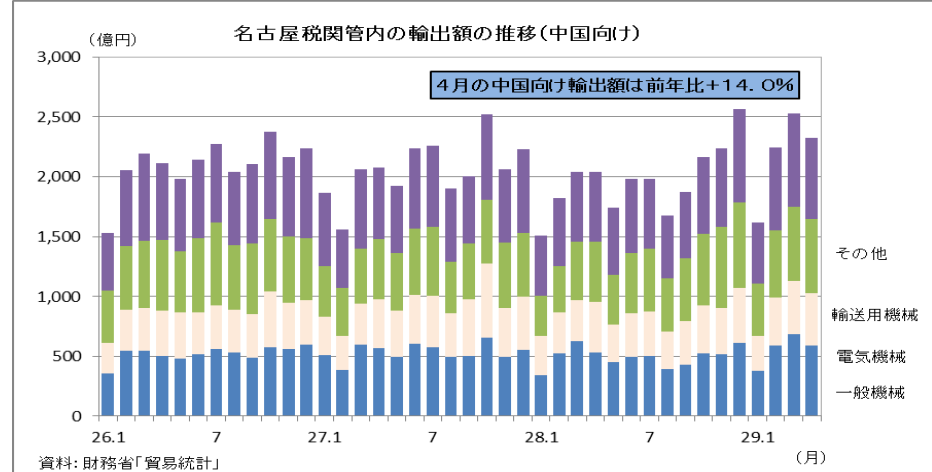
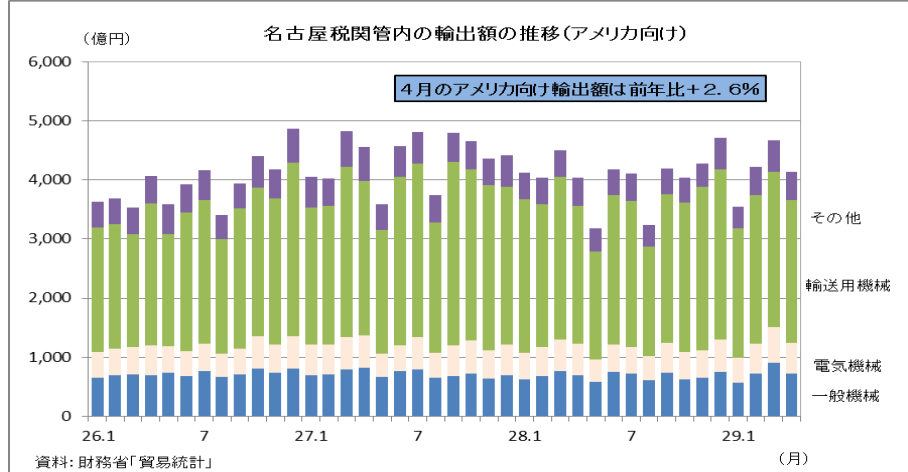
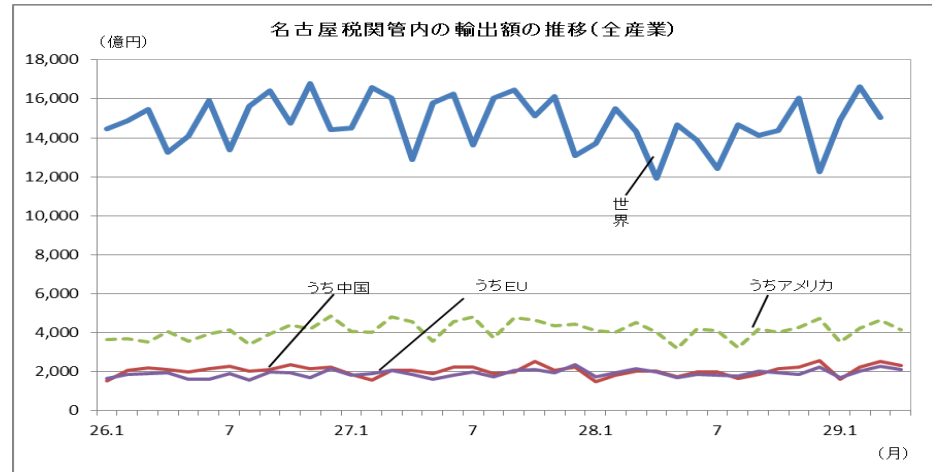
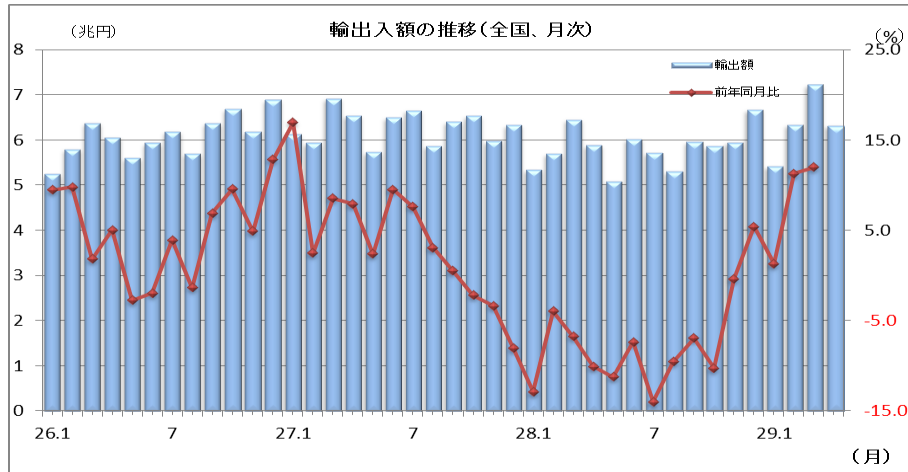


現場の動き

- ◆百貨店の衣料品の売り上げが落ちていることから、受注が減少している。(アパレル)
- ◆国内需要の落ち込みが顕著で、業況は悪化している。海外に販路を広げていかないと活路を見いだせないため、タイ、シンガポール等への販路開拓を目指しているが、まだ事業化には至っていない。(陶磁器)
- ◆売上・受注・出荷は前年比1割程度増加。新商品の開発や顧客ニーズへの細かな対応が奏功した。(刃物)
- ◆4月から少し落ち込み気味で、前年比95%程度。外部要因等を分析しても特に見当たる要因はなく、業界全体の問題であると思われる。(紙業)
- ◆春先から忙しく、売り上げは前年同月比で1.5倍ほど増加した。(木工)
- ◆昨年に比べ、販路を増やしたことと、リピート客の増加で、売り上げは全体的に増加している。(食料品)

輸 出(名古屋税関管内)

- 4月の輸出額(全国)は、6兆3, 292億円と前年同月比+7. 5%で5ヶ月連続で増加となった。
- 4月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆5, 030億円で、全産業において前年同月比で増加した結果、全体で同4. 8ポイント増加し、3ヶ月連続して前年を上回る。
- うちアメリカ向けは、電気機械以外の全産業で増加し、前年同月比2. 6%の増加。
- うち中国向けは、3ヶ月連続で全産業で増加し、全体で同14. 0%増加となり、大幅な上昇が見られる。特に輸送用機械では23. 2%の増加と高い伸びを示している。



為替・原油価格の動向による影響について

- ◆電力料金について、5月から再生エネルギー賦課金の上乗せがあり、厳しい状況が続いている。(輸送用機械)
- ◆円高が進むと、主力のアルミ製品の価格が落ちるためマイナスの影響が出る。円安が進むと、売上額は伸びる一方で、製造過程で使う電気・ガス代金が高くなるので、現状程度の為替相場がちょうどいい。(輸送用機械)
- ◆原油価格上昇は材料価格に加え、電気・ガス代金、運送料金の増加につながるため注視している。(プラスチック)
- ◆原材料が値上がりしており、今は様子見だが、秋口から来年春頃には商品の値上げを検討している。(刃物)

IoTへの取組みについて(製造業)

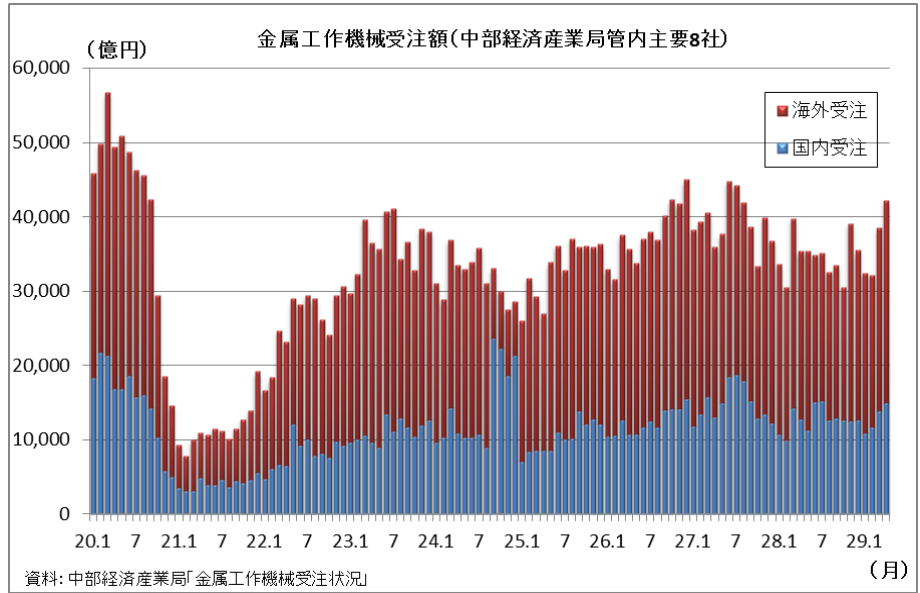
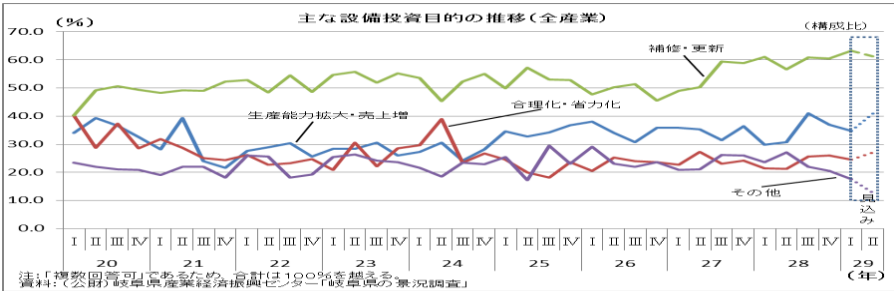
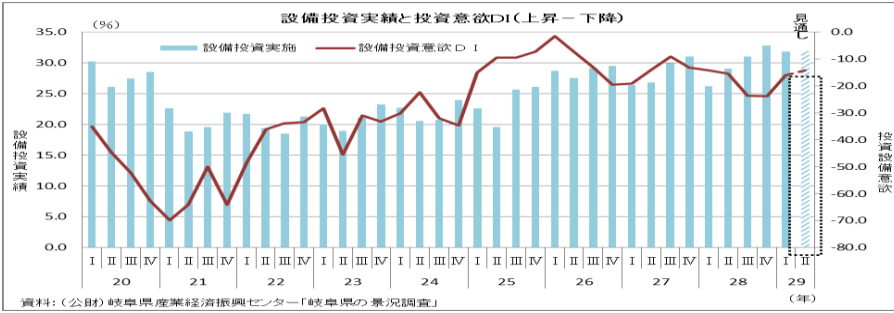
- ◆IT環境の整備や活用等の見直しを順次行っている。
- ◆今後業界動向や現場ニーズを調査し、検討を行う予定。
- ◆4～5年前から積極的に取り組んでおり、製造から納品までの過程で一貫してIoTを導入している。
- ◆岐阜大学と共同で、ダイキャストマシンのデータを吸い上げて活用しようと取り組んでいる。補助金を適用できないことや、IoTに関して一緒に取り組めるような企業や団体があれば教えてほしい。(以上、輸送用機械)
- ◆今後も人材難が続くことが予想されるため、導入の検討はしていく必要があると考えている。(生産用機械)

業界トピックス・トレンドについて

- ◆大企業ではコスト削減のため、内製化を進める傾向が強まっている。外注する場合でも単価設定額が低く、赤字覚悟でないと引き受けられないような案件も少なくない。(輸送用機械)
- ◆米国経済は回復基調であるといわれているが、取引先の米国向け輸出は伸びておらず、注視している。(はん用機械)
- ◆年間3,000万台近くが売れる中国では、今後はHVではなく、EVIに注力する方針を掲げていることから、その対応が必要。今後各社が方針を明確にしていくと思われるが、大きなチャンスでもあると思う。(プラスチック)
- ◆ここ数年イタリアのミラノサローネに出展しており、海外進出しているが、売り上げがまだついてこない。(木工)
- ◆安全装備が以前はオプションだったが、最近のトラックは初めから装着されているため、車両価格が上がっており負担。
- ◆運送業界への世間の関心も高くなっているが、運賃の改定については、中小の運送業者ではなかなか荷主と対等に話をするのは困難で、大手から業界全体に波及するよう願っている。(以上、運送業)
- ◆国交省のICT工事は、建機のリース料が高額であり、不稼働日のリース料が大きな負担となる。
- ◆週休二日制の実現には、適正な準備期間の設定、工事ごとの調整機関など工期の余裕が必要。(建設業)
- ◆消費者庁によるトクホ、機能性食品の収去検査が活発に行われている。違反があった商品の中には、製品回収や販売中止となった商品もある。(食品)

設備投資

- 平成29年4－6月期の設備投資は0.1ポイント増加と向上する見通し。設備投資意欲についても1.7ポイントの増加と引き続き上昇する見通し。目的別では、「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」が大幅に向上し、前向きな内容の設備投資が増加となる見込み。
- 平成29年4月の金属工作機械受注額は、国内受注・海外受注ともに前年同月比で増加し、全体で19.5ポイントの増加。特に海外受注が13.1%増加と大幅な上昇となった。



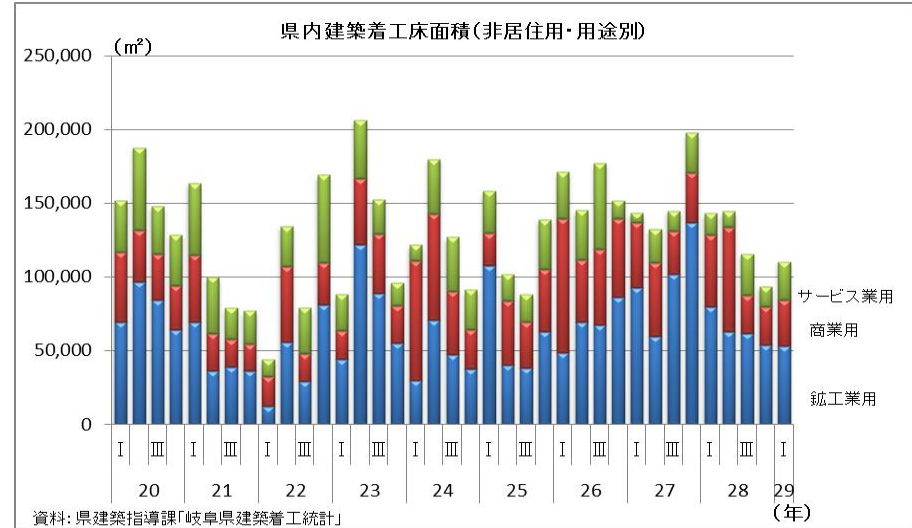
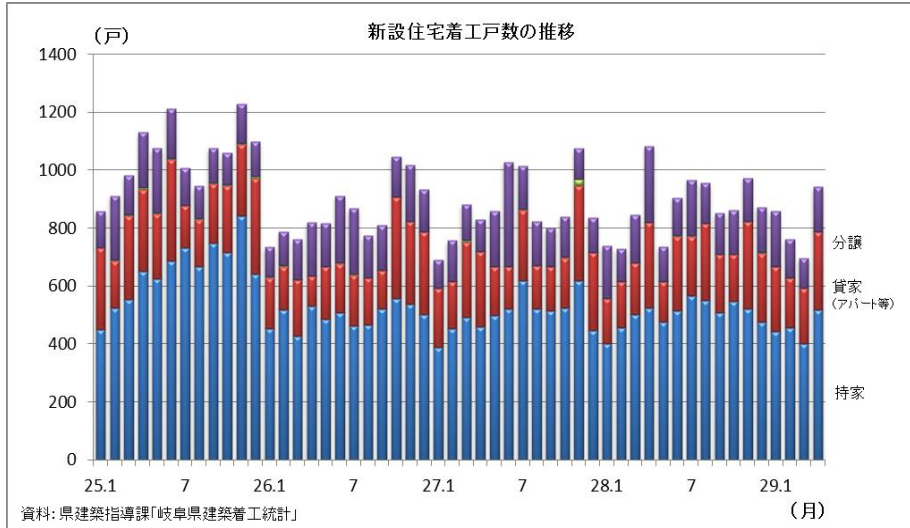
現場の動き

- ◆工場集約と合わせ、各工場の機能について見直しを行い、一部で建屋の改修を実施。(輸送用機械)
- ◆5月中にベトナム工場の土地売買契約締結予定。本社工場においても7月にかけて設備投資を実施。(非鉄金属)
- ◆例年に比べて、設備投資は範囲を広げており、投資額は数千万円単位から億単位となっている。(非鉄金属)
- ◆物流機械については、人材不足から一層の機械化を図るため、設備投資を検討する企業が増えており、今後も堅調な需要が見込まれる。(生産用機械)
- ◆省人化への取組みとして、包装機を増設。ロボット導入にも積極的に取り組む。(食品)
- ◆トヨタグループから増産の指示があるようで、生産ラインの増設を促されている状況にあるようだ。(金融)

住宅・建築投資

- 4月の住宅着工戸数は、前年同月比13.1ポイント減少し、2ヶ月連続での減少となる。
- 特に分譲では41.7ポイントの大幅に減少し、持ち家も19.7ポイント減少しており、前年が好調であったことの反動減とみられる。

- 平成29年1-3月期の建築着工床面積は、サービス業が前年同月比7.6ポイント増加したものの、鉱工業が同18.8ポイント、商業用が同11.9ポイント減少し、全体でも同23.0ポイントの減少となり、3期連続で減少した。

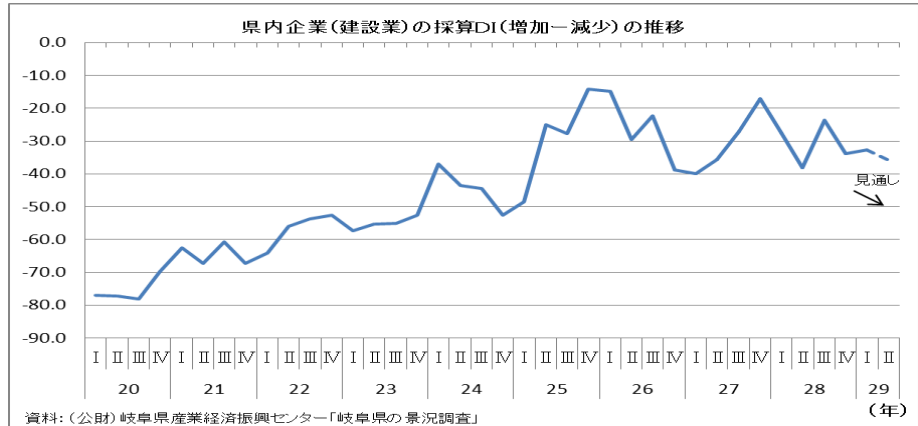
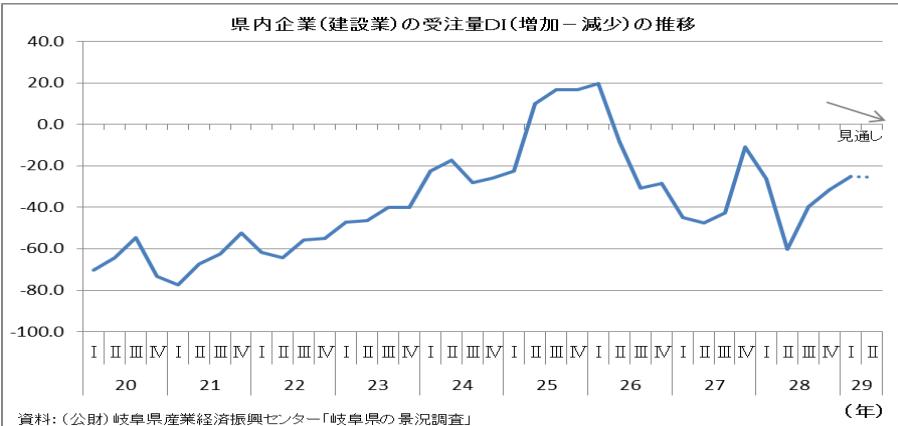
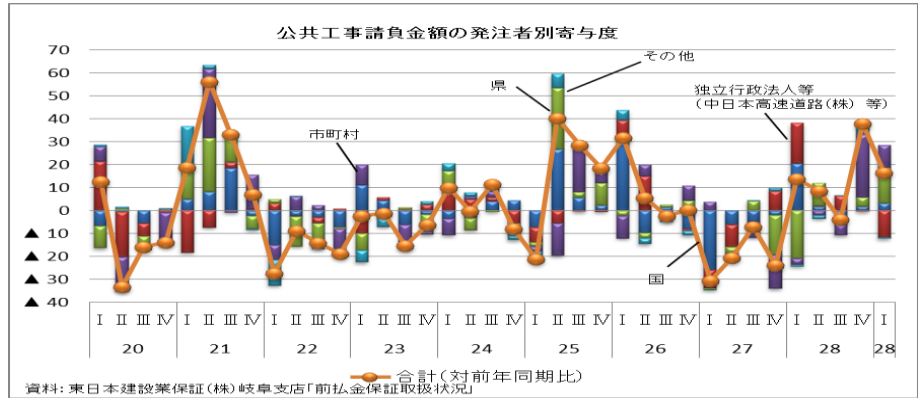
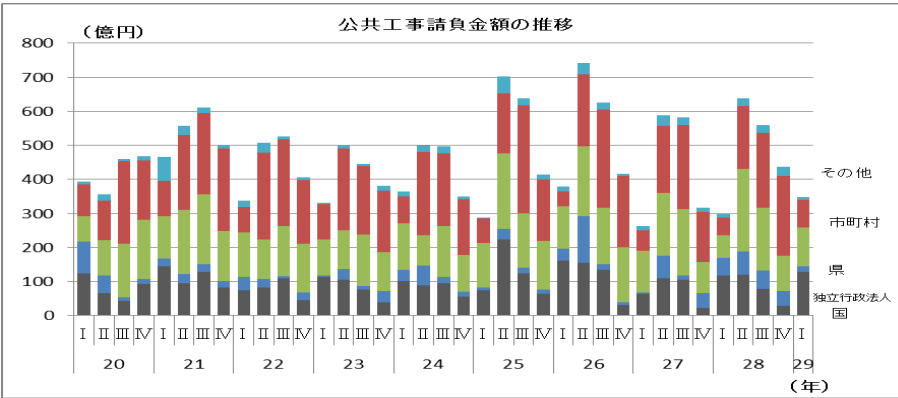


現場の動き

- ◆5月の受注・展示場の集客は前月並み。リフォーム案件は岐阜では多いが愛知は少ない。(住宅関連)
- ◆大卒の求人(営業職、現場代理人)には応募があるが、即戦力になる中途採用は集まらない。(住宅関連)
- ◆売り上げは前月比で横ばい。相変わらず材がない状況で厳しいのに、製品単価も下がっている。(木材加工)
- ◆公共工事の発注も出始めたが、予算の関係からか単価が低い。木材業界は需要が無く、相変わらずのデフレ。(製材)
- ◆5月は対前年比2%増加。床材は公共施設での使用もあり好調で前年比23%増加。(製材)
- ◆製品単価が低く、もう少し価格が上がってくれないと、素材の価格が上がった場合に価格転嫁できる状況になく、対応が非常に難しい。(製材)
- ◆C・D材は製紙用チップの引き合いが旺盛だが、価格は横ばい。(森林組合)

公共工事

- 平成28年度の公共工事請負金額は、3期ぶりに増加し、1,983億円と前年度比11.1%増加。
- 平成29年1-3月期の公共工事請負金額の発注者別寄与度については国、県、市町村が増加。特に県が15.7%、市町村が9.7%プラス寄与し、全体では前年同期比16.6%の増加となった。

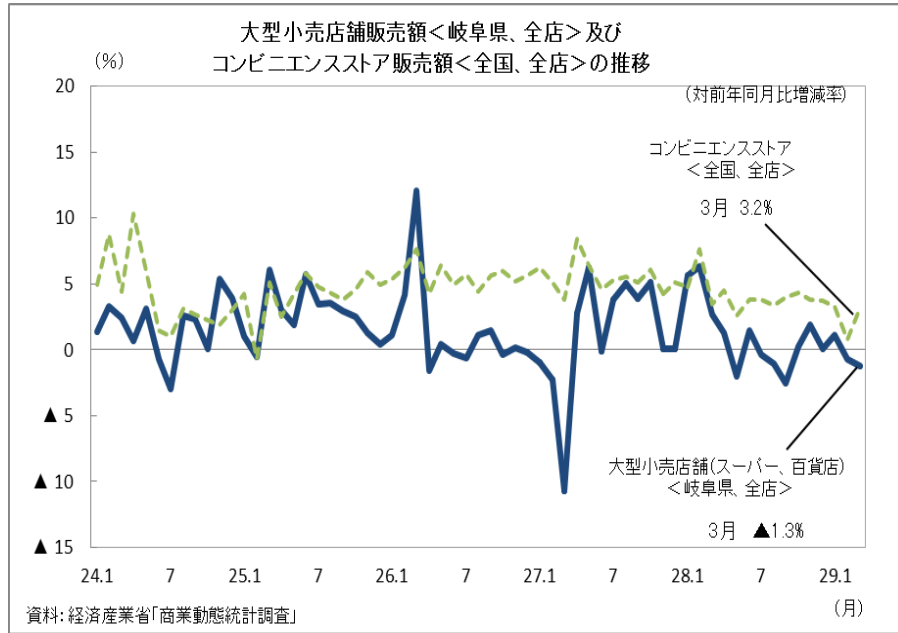


現場の動き

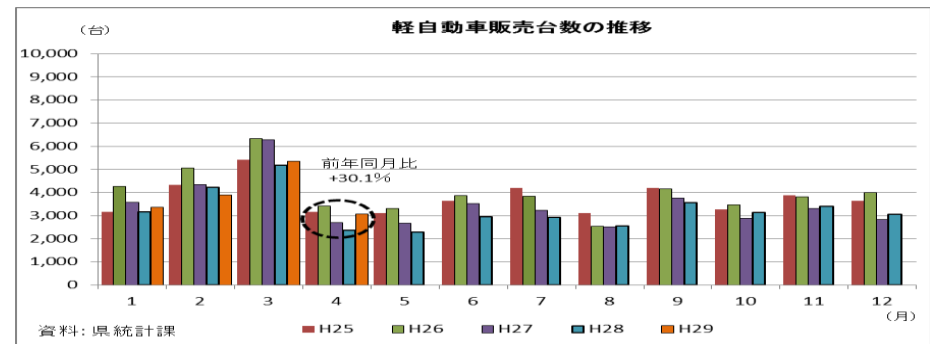
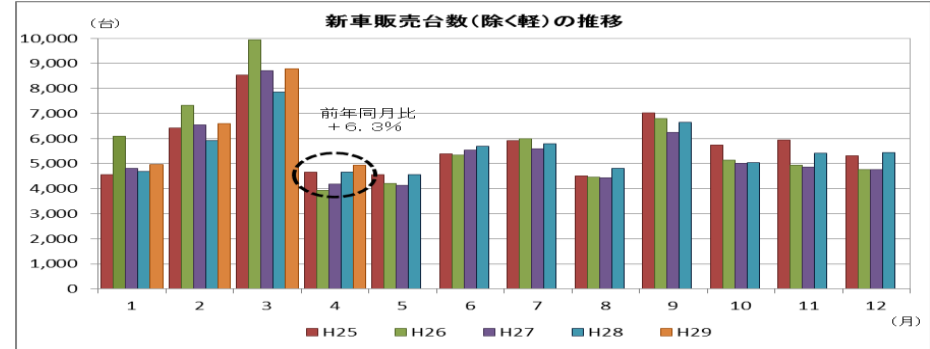
- ◆契約件数は前年と同程度であるが、金額が高いものが少なくなっている。
- ◆雇用の維持のために賃上げは必要との認識を持ち、社内で検討している。
- ◆ICT関係投資については、企業間で差が出ている。ICT関連の受注は100%外注と決めている企業もある。
- ◆働きやすい環境づくりのため、休暇を取りやすい環境づくりの推進や社内研修を進めている。(以上、建設業者)

個人消費(流通・小売)

- 3月の大型小売店販売額は、前年同月比1.3ポイント減少し、2カ月連続での減少となった。
- コンビニエンスストアの3月販売額は、前年同月比3.2%の増加と、引き続き堅調な販売額の伸びを示している。



- 4月の新車販売(除く軽)は、前年同月比6.3ポイント増と13ヶ月連続で増加。
- 軽自動車は、同30.1ポイントの大幅な増加となり、2ヶ月連続で増加となる。

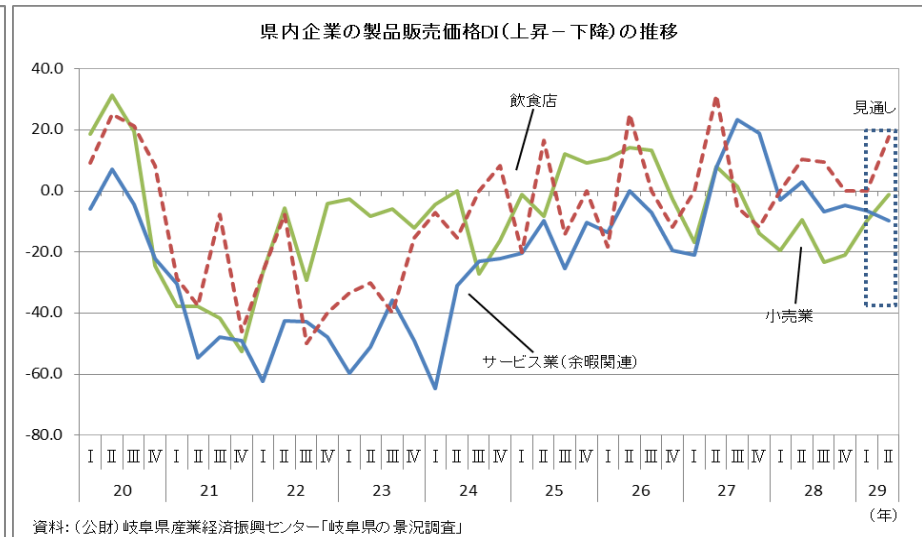
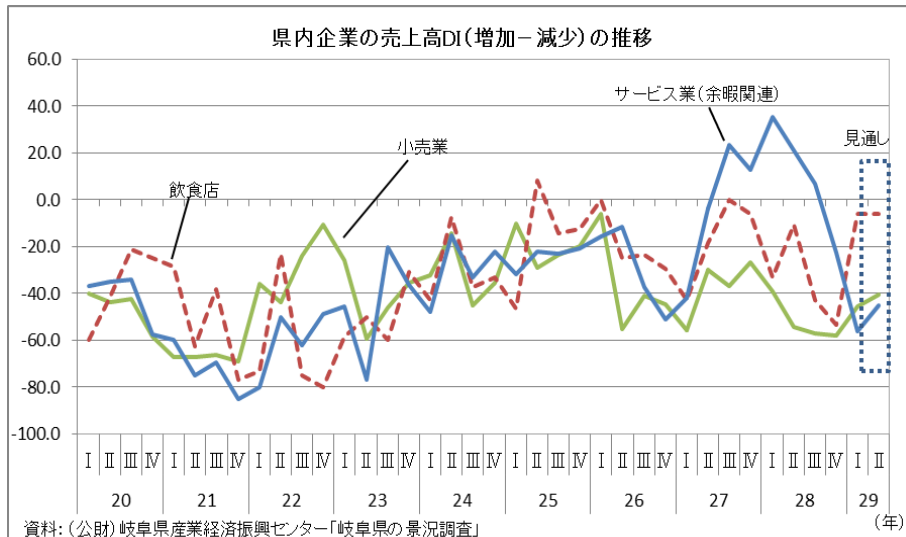


現場の動き

- ◆5月の売上は前年同期比で5%増加。来客は7%増加。新車受注はC-HRと併売車が好調で前年同月比113%、サービスは同107%、映画はアニメが好調で同116%となる。名古屋のゲートタワーオープンにより、ファッション店舗を集積しているSCなどでは影響が見られており、今後注視する必要がある。(大型商業施設)
- ◆売上は前年同月比103%、客数も同103%、客単価は100%。(小売スーパー)
- ◆5月の売上高は前年度同月比102%増加。客数は同100%、客単価は同1%の微増。(コンビニ)
- ◆売上は前年同月比96%、客数は同95%、客単価は10,000円で横ばい。近隣に競合店もあり伸び悩み。(家電)

個人消費(流通・小売)ー2

○平成29年4ー6月期の売上高DIの見通しは、サービス業及び小売業で改善し、飲食店は横ばいとなる見通し。同じく販売価格DIについては飲食店で17.6ポイント、小売業で8.5ポイントの改善が見込まれるものの、サービス業においては3.2ポイントの悪化となる見通し。



現場の動き

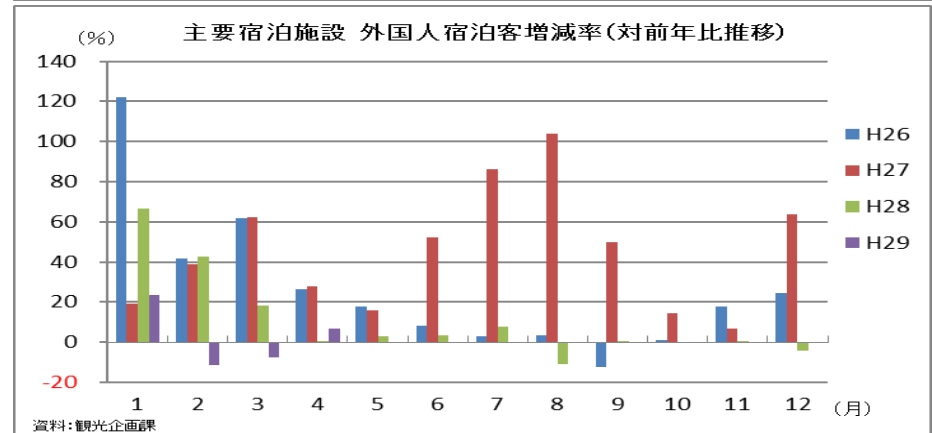
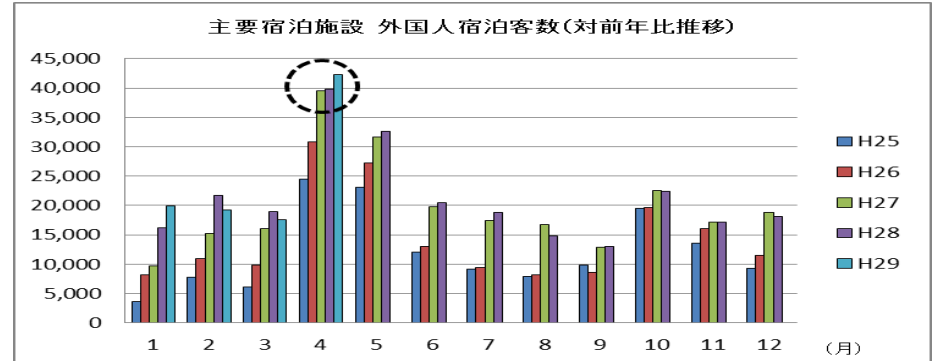
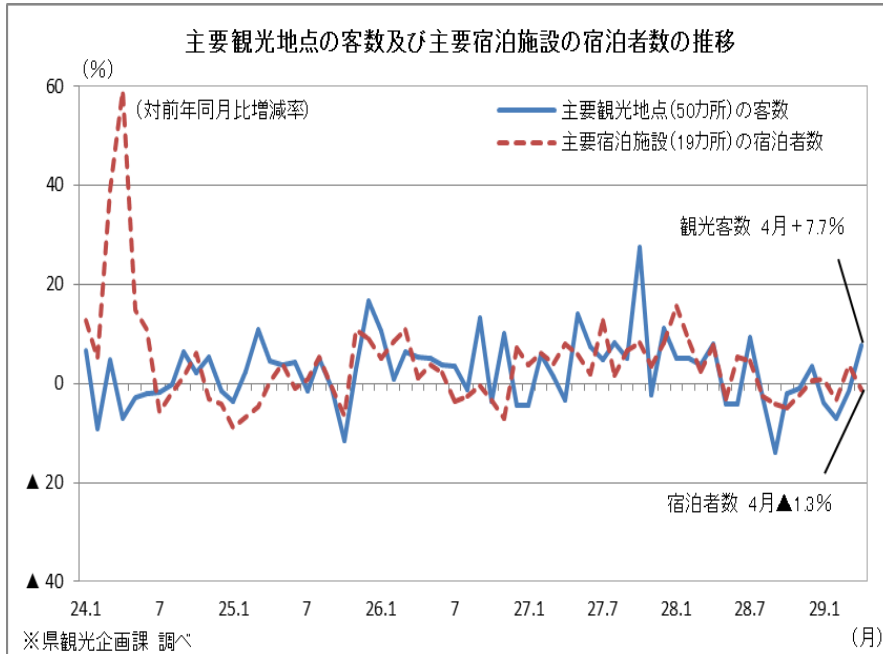
- ◆入館者数は催事での集客もあり前年同月比で上回る見込みだが、館全体売上としては前年同月比で下回る。
- ◆生鮮食料品スーパー、サービス、ファッションは前年同月比100%を下回る。(以上、アクティブG)
- ◆GW中は天気も良く、普段より人通りも多かったのが好影響だった。売り上げは和菓子店が前年同月比2%減、飲食店は同63%増加。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆5月は団体やグループでの観光客が多かった。GWが前年より1日少なかったことと大垣祭りの初日が雨だったことから、和菓子の5月売上は前年同月比3%減。(大垣市商店街)
- ◆GWは混雑を避けるため、地元客の足が遠のき、買い物客が少ない。観光客は多いがなかなか売上に結びつかない。
- ◆売上は、陶器・土産店が前年同月比100%、衣料品店も同100%。(以上、高山市商店街)
- ◆子供服店の売上は前年同月比100%。暑くなり夏物がでるようになったが、地場産業はまだよくなり消費は低迷。
- ◆酒類販売店の売上は同95%。飲食店向けは変化は無かったが、店舗への来客が少なく、売り上げが落ちた。(以上、多治見市商店街)

観光

○主要観光地における4月の観光客数は、前年同月比7.7%の増と4ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

○一方主要宿泊施設における宿泊者数は、同1.3%の減と2ヶ月ぶりに前年を下回った。

○4月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比の増減率では6.6%増と3ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

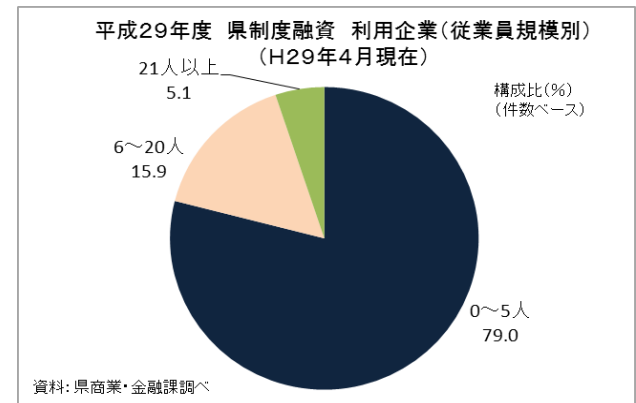
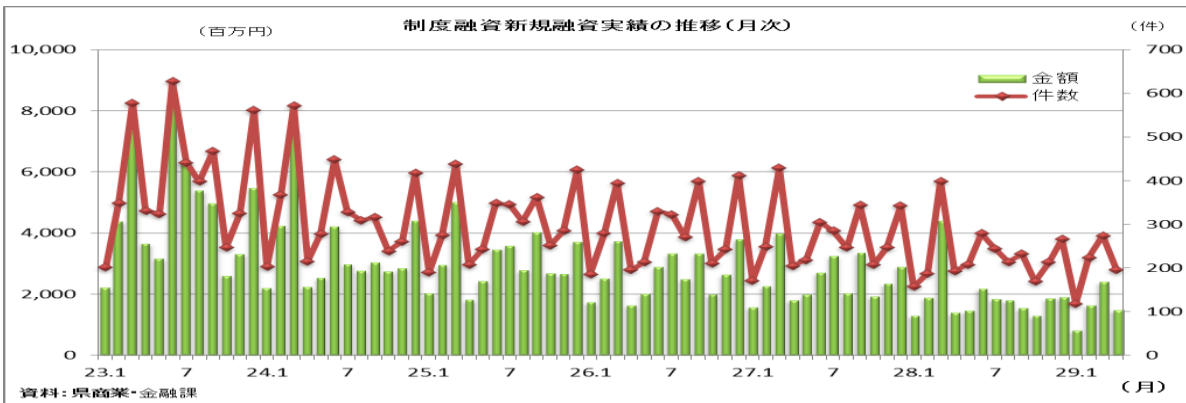
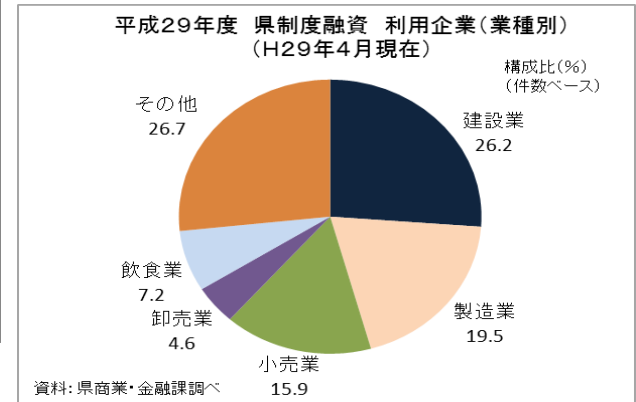
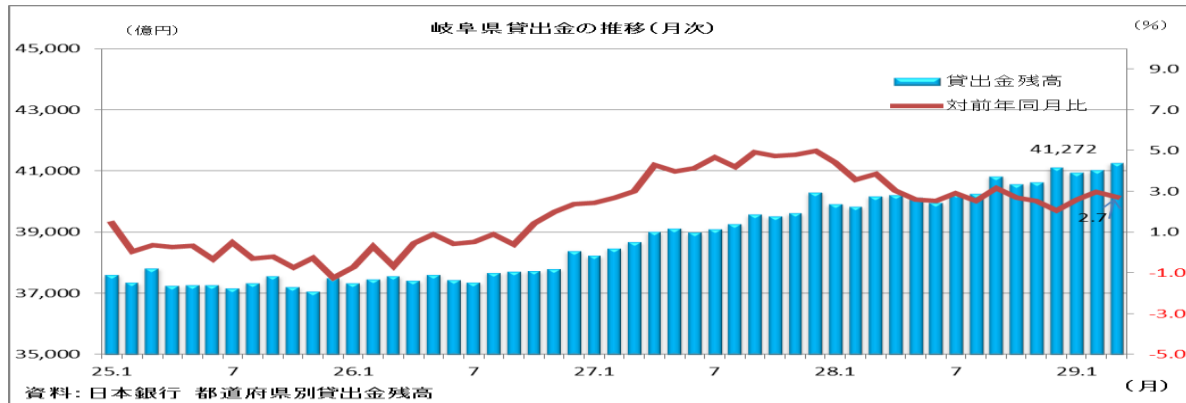


現場の動き

- ◆引き続き、インターネット経由は好調。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆アジアの各地域からまんべんなく来日、来岐されている印象。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆中国が激減している。大型バスで行動する団体旅行からFITに移行してきている。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆国内の団体、個人客の動きが鈍い。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆4月は昨年に引き続き欧州が好調。(高山市内の宿泊施設)
- ◆GWに集中しすぎており、GW明けの平日は個人・団体ともに動きが鈍い。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 3月の岐阜県貸出金残高は、4兆1,272億円で前年同月比2.7%増と平成27年以降堅調に推移。
- 4月の制度融資実績は、金額が1,478百万円で前年同月比6.3%増加となり、13ヶ月ぶりに前年比増加となった。また、件数は、2ヶ月ぶりに増加し同1.0%増の195件となった。
- 建設業・製造業・小売業の利用が6割以上を占め、従業員5名以下の零細企業が約8割を占める。

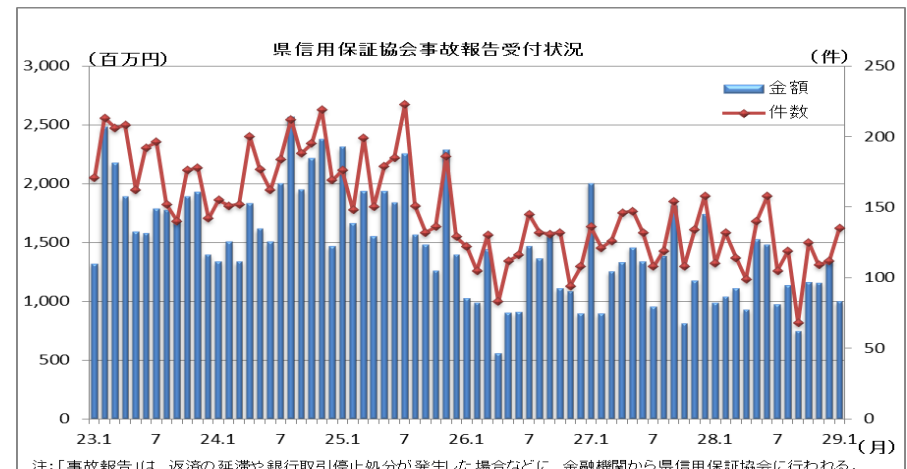
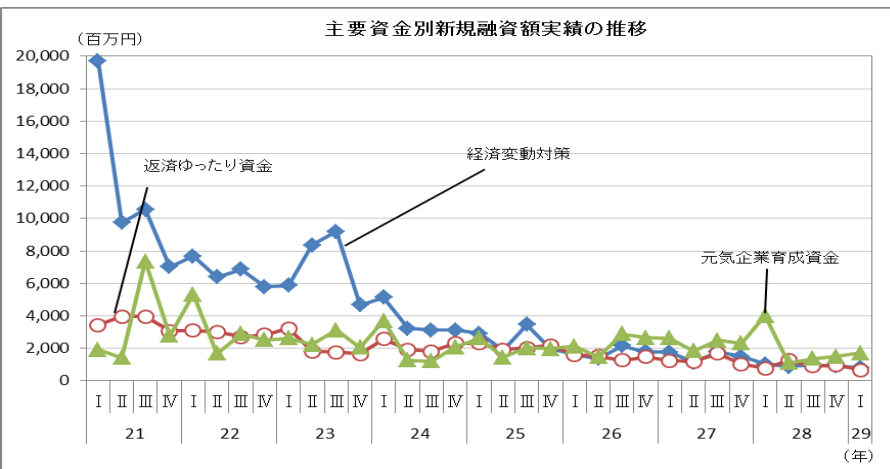
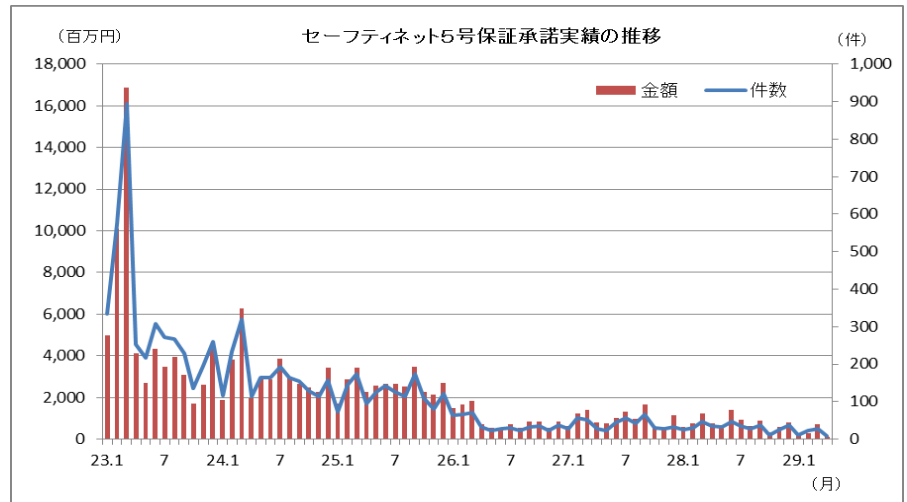
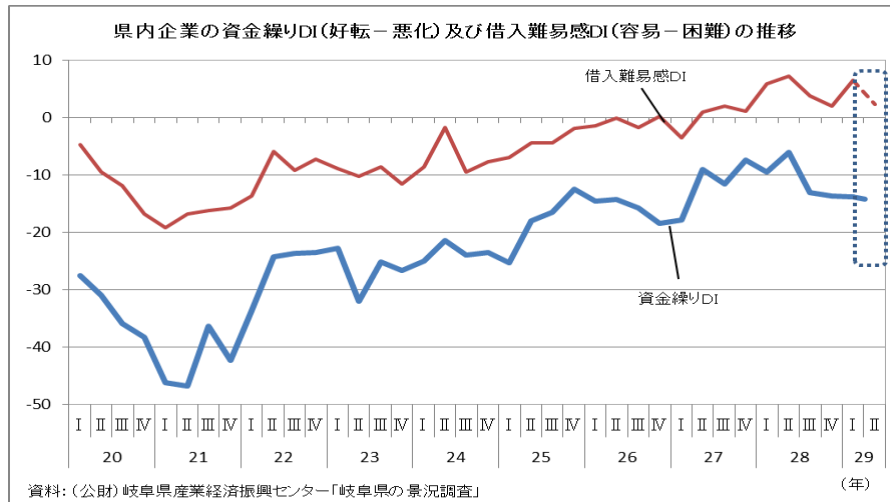


現場の動き

- ◆ 資金は借りやすい状況が続いているが、先行投資ではなく必要な資金のみを借り入れる傾向がある。
- ◆ 人手不足から全体的に賃上げに動いているようにみられ、雇用環境の整備も進んでいる。(以上、金融)

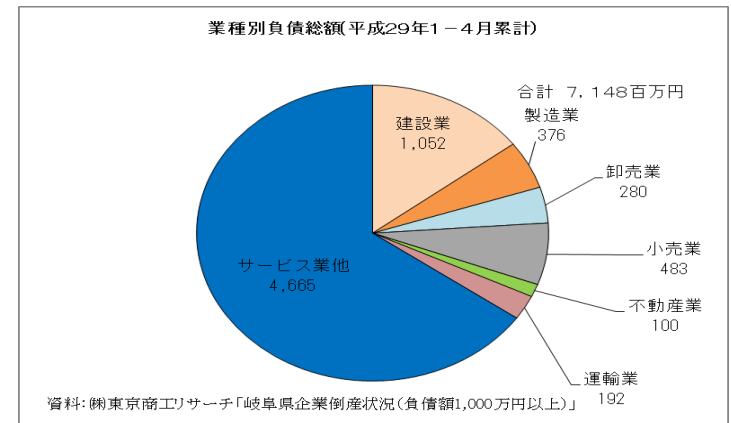
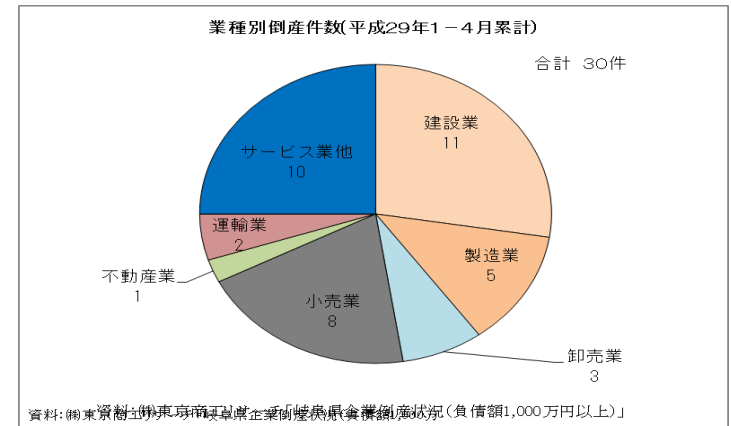
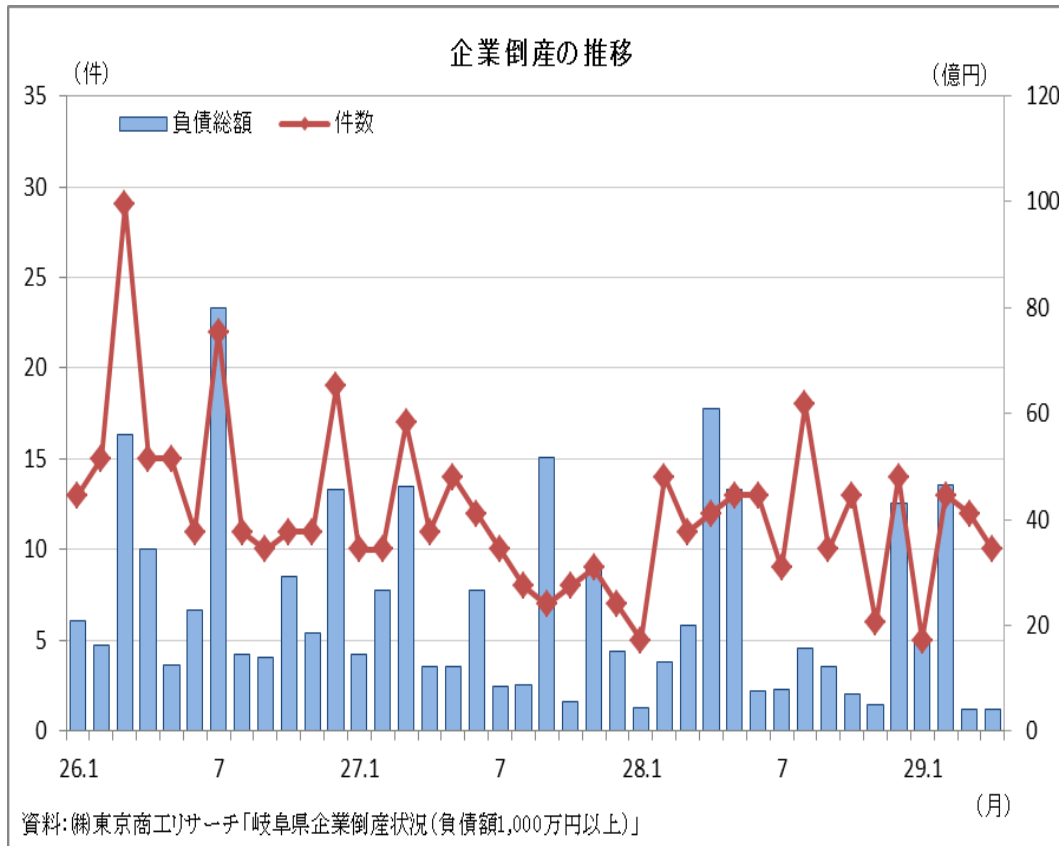
資金繰りー2

- 県内企業の借入難易感DIの29年4－6月の見通しは、マイナス14.6と前期比0.8ポイント減少する見通し。同じく資金繰りDIについては、同4.2ポイント悪化する見通し。
- セーフティネット5号保証承諾実績は、件数が前年同月比77.1%の減少、金額が同85.1%の減少となっており、経済状態が「有事」から「平時」に戻り、利用が低調となったことが伺える。
- 平成29年4月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数が82件で前年同月比▲17.2%と4ヶ月ぶりに減少。金額は570百万円で同▲38.6%と2ヶ月連続で減少した。



倒産

○4月の倒産件数は前年同月比2件減少し10件。負債総額は同93.34%減少し4億6百万円。
○件数、負債ともに減少しているが、小口化が進んでおり、小規模倒産が中心の推移。



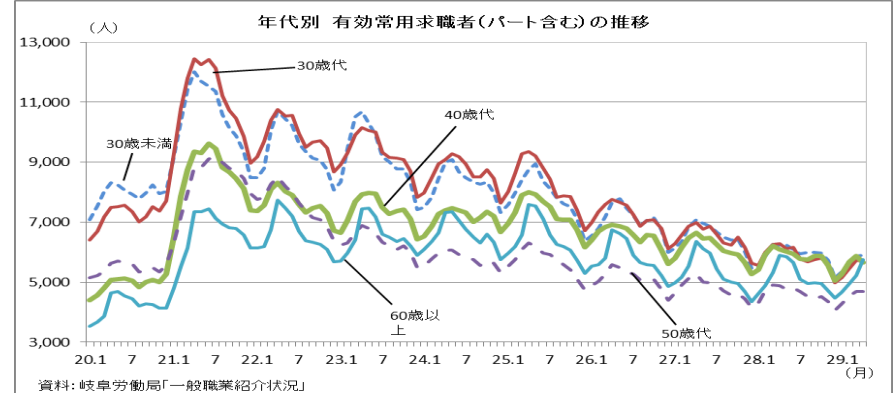
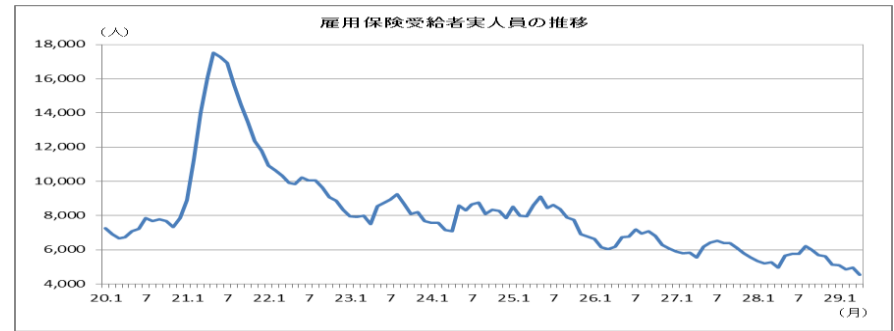
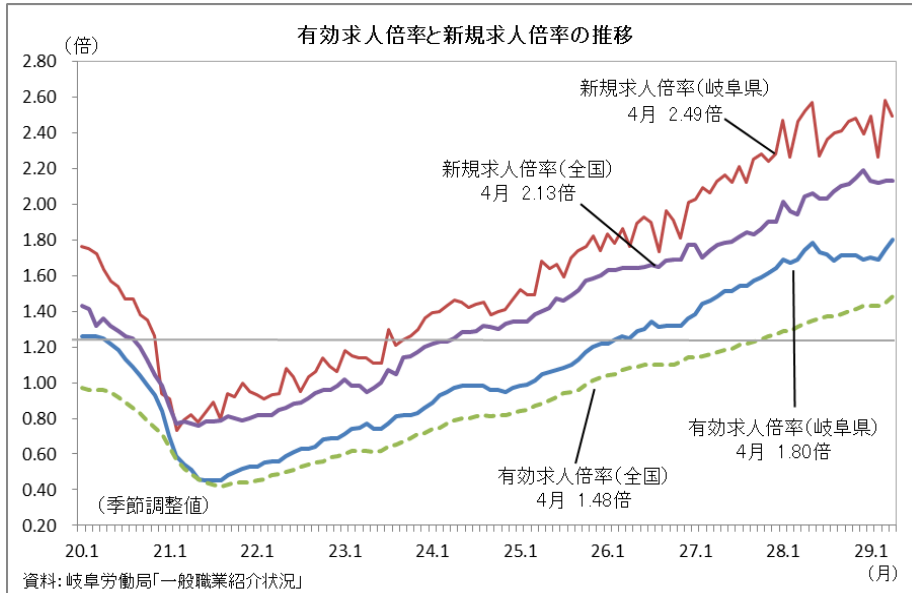
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆4月の倒産件数は10件と前年同月比で2件増加したものの、負債総額は個人事業主の件数が半数以上を占めたことにより、前年同月比で56億9,800万円の減少。全体的に小口化が進んでおり、小規模倒産が中心。
- ◆引き続き、個人消費は力強さを欠いていることに加えて、好調、不調企業の差が開く一方であることから、市況回復の恩恵を受けにくい企業は市場からの撤退は避けられない。このため、引き続き体力の弱い企業を中心とした一定数の倒産発生が続く見通し。

雇用

- 4月の有効求人倍率は1.80倍と前月より0.05ポイント上昇し、全国第5位となる。
- 4月の新規求人倍率は2.49倍と前月より0.9ポイント減少した。

- 4月の雇用保険受給者人員は前年同月比8.9%減と46ヶ月連続で前年を下回る。

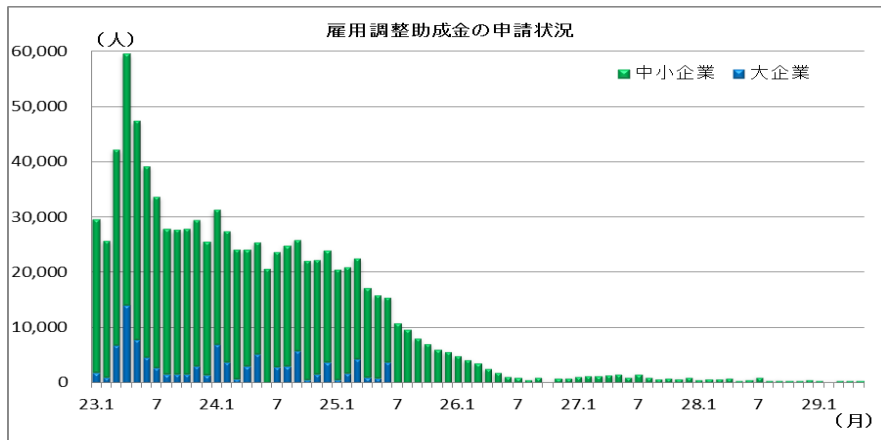
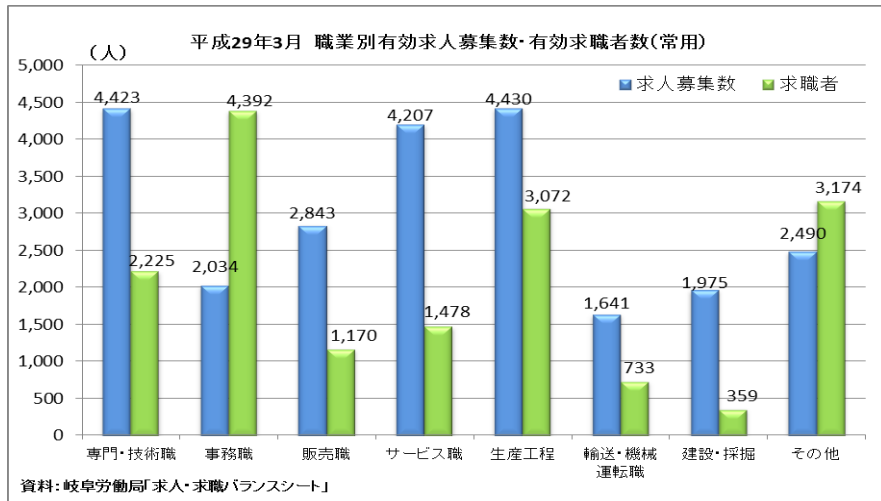


現場の動き

- ◆大卒新卒者の採用は苦戦中。中途採用についても優秀な人材確保は困難。(輸送用機械)
- ◆17年卒はなんとか計画通り確保できたが、18年卒は大手の採用も活発であり、厳しくなると思う。(輸送用機械)
- ◆土岐は愛知からの通勤圏だが、名古屋市内に吸い取られて、いい人はなかなか確保できない。(輸送用機械)
- ◆若年層のドライバー確保が相変わらず厳しい。(運輸業)
- ◆政府は働き方改革を掲げているが、中小企業でできることを広めていくことが大事。大企業や公務員しかできないことを基準とされても中小企業は対応が難しい。(製材)
- ◆大学生の就職活動の最盛期にも関わらず、応募数が昨年よりも少ない。(建設業)
- ◆人手不足による新店のオープンに遅れは無いが、既存店においては募集をかけても応募が少ない。(コンビニ)

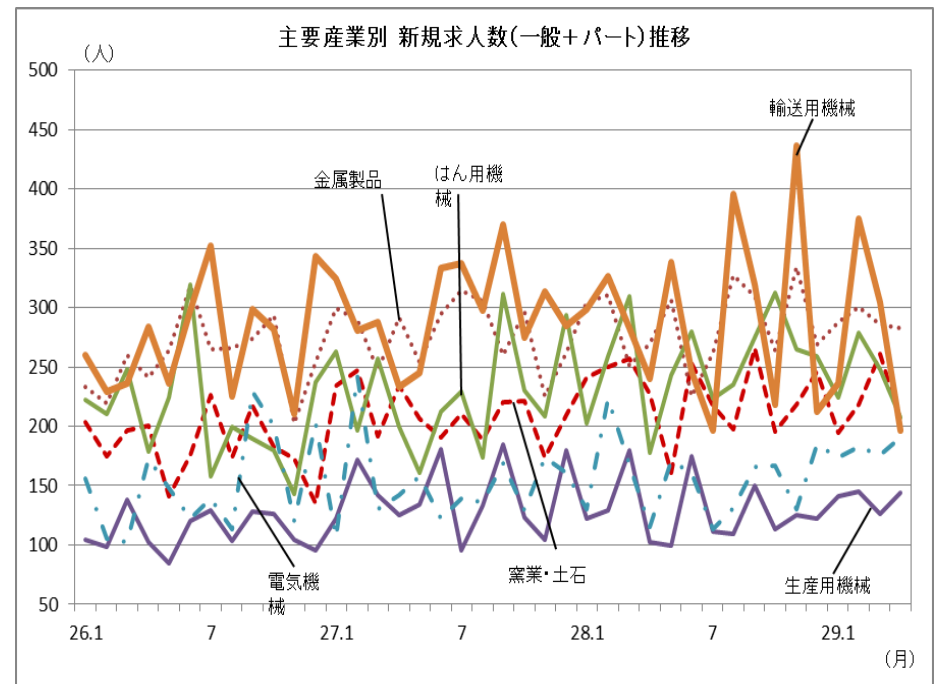
雇用(職業別)

○建設・採掘の求人倍率5.5倍を筆頭に、専門・技術職、販売職、サービス職、運転職で求人倍率が2倍を超えるなど、引き続き各分野において人手不足が顕著となっている。一方で、事務職の求人倍率は0.5倍以下に留まるなど求職者のニーズとの乖離が続いている。



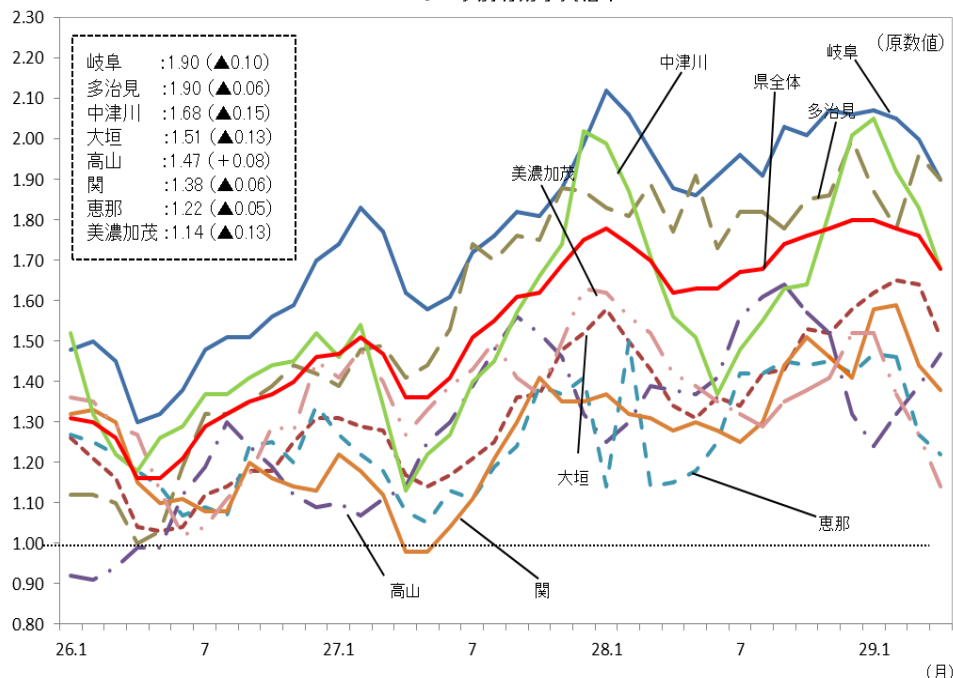
○4月の主要産業の新規求人数は、前年同月比で電気機械66.1ポイント、生産用機械41.2ポイント、はん用機械16.3ポイントと大幅に上昇しており、中国景気的好調を受けた機械製品の好調による生産能力向上のため求人を増やしていると推察される。

○一方で、輸送用機械17.9ポイント、窯業・土石9.7ポイントそれぞれ減少。



雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



注1: 大垣所分は損斐出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○4月のハローワーク別有効求人倍率は、高山で上昇が見られるが、そのほかの地域は下降となっている。
○雇用保険受給者は高山以外で増加。

現場の動き(先月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

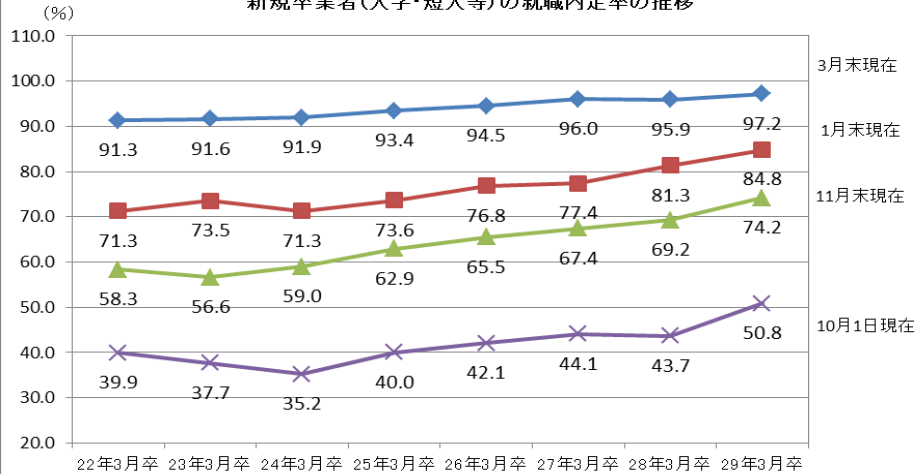
<窓口の様子> ※前月比

- ◆中津川で混雑、岐阜と大垣でやや混雑している。
- ◆多治見、恵那でやや空いている。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

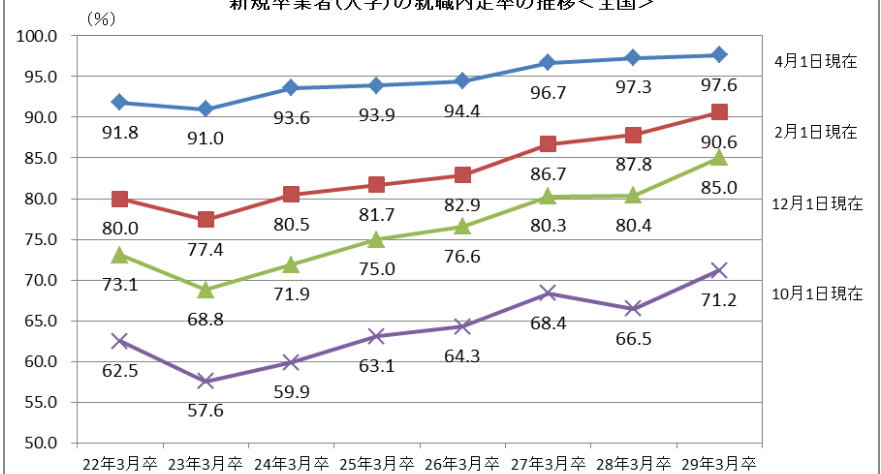
○3月末時点の大学・短大卒業者(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比1.3ポイント増の97.2%となり、直近8年で最も高い内定率となる。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移



資料: 岐阜労働局「新規大学等者の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(平成30年3月卒の動き等)

<企業動向>

- ◆4月～5月の企業の説明会開催は前年比で120%と、企業は学生確保に積極的に動いている。
- ◆理系の学校推薦等は、昨年より早めに動いており連休前にはマッチング済み。6月1日の選考開始日が実質的には内々定告知日となっており、5月は新卒採用の選考フェーズの繁忙時期。

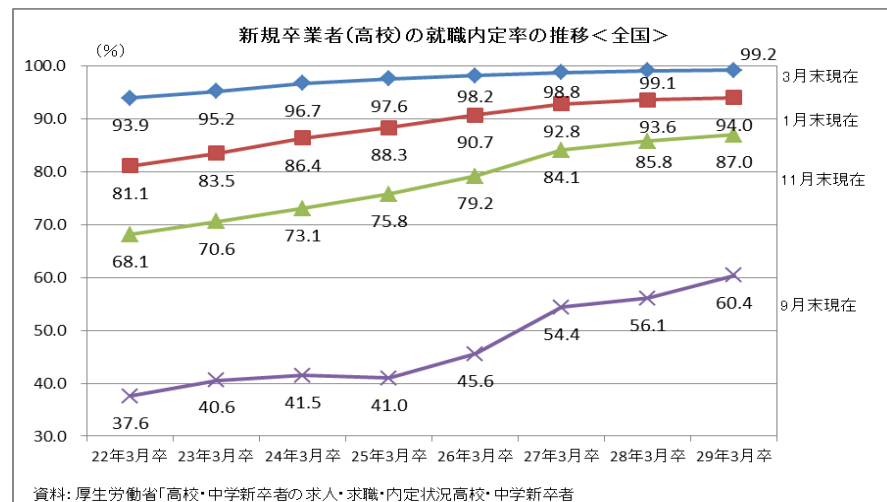
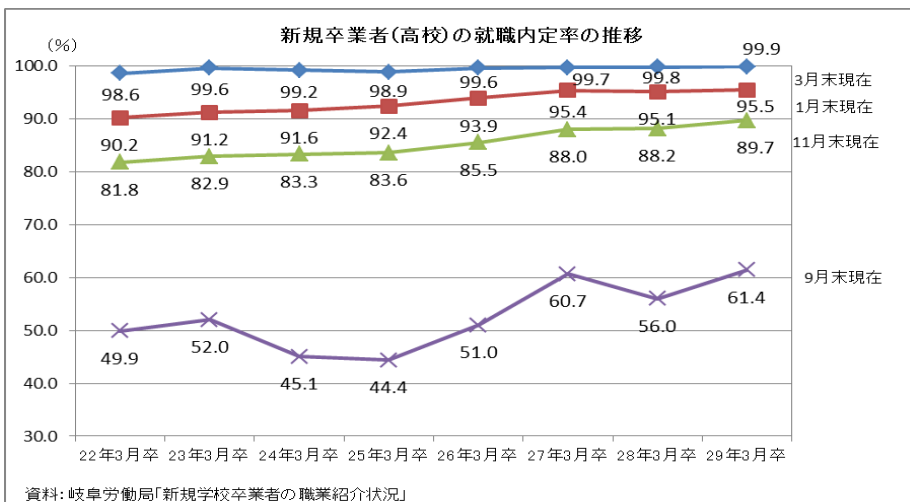
<学生動向>

- ◆4月の平均エントリー社数は7.3社(前年比▲1.9社)。個別セミナーへの参加社数は5.6社(前年比▲1.8社)。
- ◆一方で面接を受けた数が3.9社(前年比+0.5社)となっており、多くの学生が選考フェーズに入り、早いスピードで就職活動が行われ、4月末時点での内々定率は23% (前年+4.1ポイント)。4月末の時点で、既に4人に1人近くが内々定を取得している状況。
- ◆学生の就職観にも変化が見られ、先輩と比較して自分たちの就職活動が楽になると答えた学生は23.8%と3月時点での19.4%と比較し、4.4ポイント増加。就職活動が進むにつれて、売り手市場であることを実感していると推察される。

(マイナビレポートより抜粋)

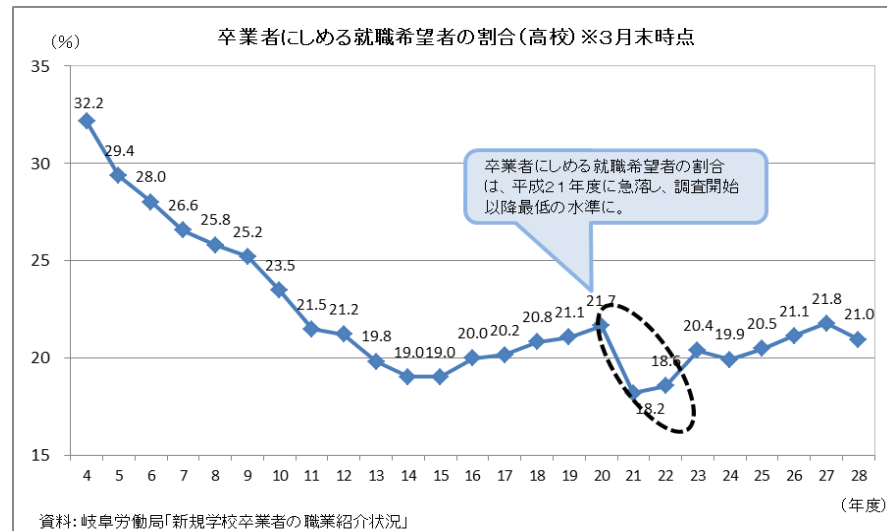
雇 用(高校新卒者の就職)

- 3月末時点の高校卒業者(平成29年3月卒業)就職内定率は、前年比0.1ポイント増の99.9%となり、直近8年で最も高い内定率となると同時に、全国の就職内定率を大きく上回っている。
- 全国の就職内定率は昭和63年以降で最高水準となる。
- 平成28年度卒業者における就職希望者の割合は、4期ぶりに低下した。



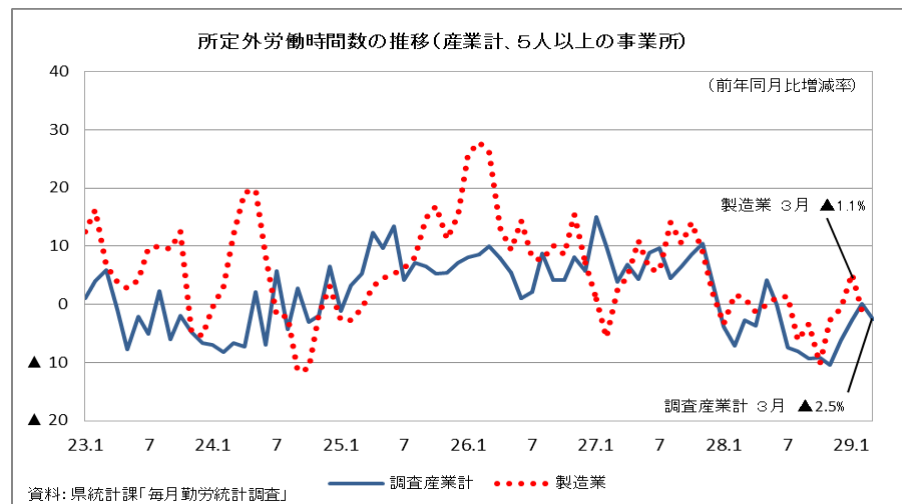
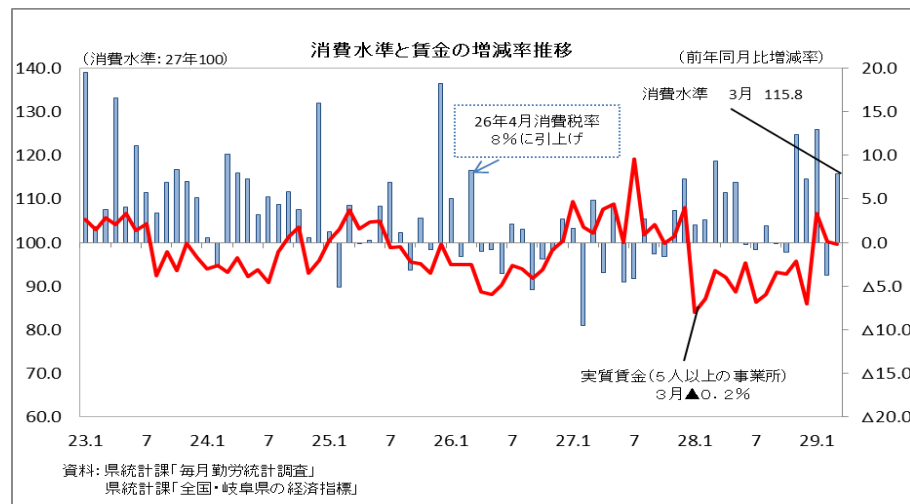
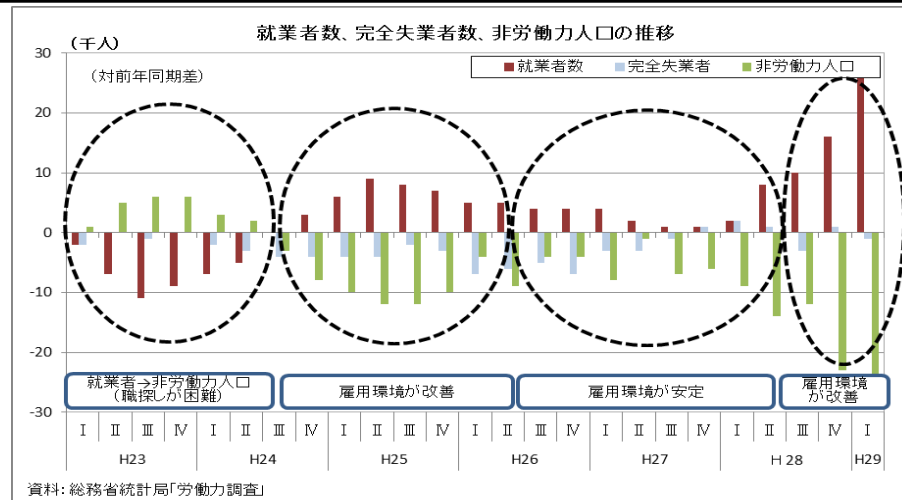
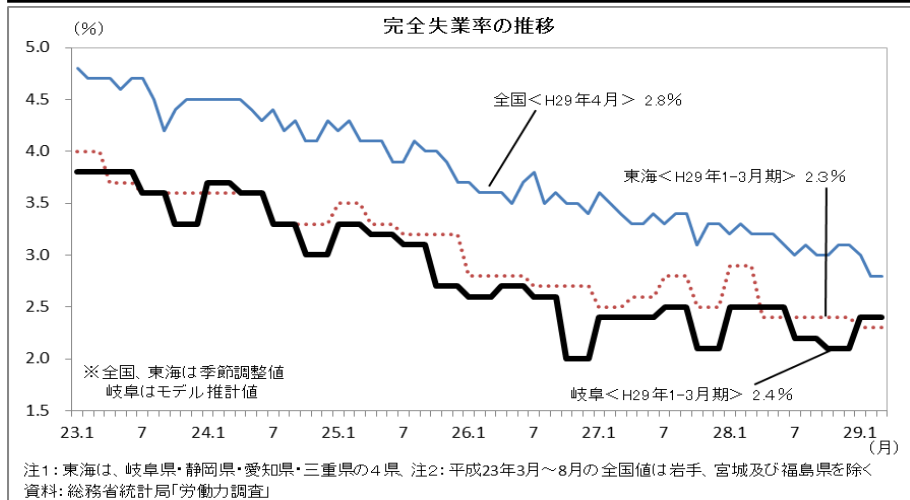
現場の動き(H29.3卒の求人・内定状況)

- 数年ぶりに高卒求人を予定している事業所からの問い合わせが増えている。
- 多くの事業所から新規学卒求人取扱説明会の問い合わせがある。
- 製造業から、高卒求人の提出を検討しているという声が昨年より多く聞かれる。



雇 用(完全失業率等)

- 岐阜県の平成29年1-3月期の完全失業率は2.4%となり、前期比+0.3ポイント上昇したものの、依然として全国平均の2.8%と比べて低い水準で推移している。
- 3月の賃金増減率は、5人以上の事業所については前年同月比0.3%減少し、賃金の伸びが低調であることが伺える。一方で消費水準は115.8と前月より上振れしている。
- 3月の所定外労働時間数は前年同月比2.5%減少。製造業においても1.1%減少した。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、9年ぶりの高水準となった輸送機械（主に自動車産業）を中心に、はん用機械やプラスチック製品などの幅広い産業で底堅い動きが見られ、全体としては持ち直しの動きが継続している。
- 地場産業は、海外製品等との競合、国内需要の低迷、原材料費高騰による収益の圧迫など厳しい状況が継続しているが、生産に持ち直しの動きもみられる。
- 設備投資は、国内の金属工作機械受注額が、前年同月比で増加するなど、底堅く推移している。特に人手不足への対応のために「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」といった設備投資へのニーズが高まっている。
- 個人消費は、実質賃金が伸び悩む中、大型小売店等の売上は前年同月比で弱含むなど一部で弱さも見られるが、新車販売台数や軽自動車の販売台数は堅調な推移を見せており、総じて持ち直しの動きが継続している。
- 観光は、リニューアルオープンした施設など話題性がある施設の観光客数の増加や、1ヶ月を通して天候に恵まれたことにより屋外施設利用者数が増加し、全体として観光客数が増加となった。一方、宿泊施設は、減少となった。
- 企業の資金繰りは、借入難易感が改善するなか、全体的には事故報告や倒産件数も減少傾向にあるが、一方で経営体力に乏しい小規模企業においては厳しい状況が継続している。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、良好に推移しており、総じて県内の雇用情勢は着実に改善している。但し、人材が大手企業に流れ、多くの中小企業では採用難に陥っており、人手不足が慢性化している。